

文教厚生

常任委員会

5月20日～5月21日

1日目

●研修地

福岡県須恵町

(すえまち)

●研修目的

幼保一体化保育

●研修内容

須恵町は、面積16・31k㎡、人口約2万7千人で福岡市圏に属し、昔の面影を残す自然豊かな町だ。石炭産業が幕を閉じると2万人近い人口も1万2千人ほどに激減したが、現在は福岡市のベッドタウンになっている。

昨今、女性の社会進出が顕著となり、幼稚園の定員割れ、保育所における待機児童の激増が行財政に大きく影響を及ぼすようになっていく。

平成12年より、「幼稚園・保育所一元化」について、健康福祉課と

教育委員会が研究調査に入り、0歳から高校入学にかかる奨学資金貸付制度までを一貫して取り扱う課として「子ども教育課」を誕生させた。

町民は、子育てに関する手続きが一つの窓口ででき、情報の共有化が図れ、命令管理系統が一本化されたため、実務がスムーズになった。

問題点は、担当管理職の管理範囲が拡大し、職員の窓口対応が煩雑化になったことだ。

平成19年4月に県内初の公立幼稚園・保育所を一体化した認定子ども園「アザレア幼児園」を開設した。

園での送迎はしないため、広い駐車場がある。

●所感

人的資源の有効活用を行うこと、統一カリキュラムによる一元化された乳幼児保育教育の実践を考慮した時、一元化がもたらす行財政効果は大きいと感じた。

2日目

●研修地

佐賀県みやき町

●研修目的

地域子育て支援事業

●研修内容

みやき町は面積52k㎡、人口約2万5千人、佐賀県の東部に位置する。人口減少と共働き家庭が急増しており、延長保育・放課後児童対策が直近の最大課題となっている。

人口減少を食い止めるべき、公民連携を活用した「子育て支援のまち」を平成24年9月に宣言し、義務教育施設整備事業、新婚・子育て支援住宅の建設・子供医療費助成の充実・子供いじめ体罰等防止条例・放課後児童クラブの充実・児童館建設を掲げ、取り組んでいる。

民間の資金を活用し、町営でありながら民間業者と30年間の賃貸契約を結び、セキユリティ完備の若者向け

5階立てマンションを建設した。1階に子育てコミュニティホールを設置し、子育て支援に配慮した造りになっている。

児童館は、保育所、コミュニティセンター、町民ホール、教育委員会、社会福祉協議会、町営老人ホームが広い駐車場を囲むように同一敷地内あり、利便性を確保している。

昨年4月にオープンした「こども未来センター」に隣接して、放課後児童クラブ、保健

センター、福祉課があり、相互に連絡を取りながら運営している。

子育て支援センターの利用状況は、町内者が60%、町外者が40%であるが、町外の利用者にも好印象を持ってもらい、将来町内に移住してもらえるような方針で運営している。

●所感

子ども支援政策で、人口減少に近年歯止めがかかったと、末安みやり町長の説明に、熱い思いが感じ取れた研修となった。



のびのびと裸足保育で遊びに夢中

